

第 165 回 簿記能力検定試験
上級 商業簿記①

問題 1 (単位：千円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	土地	2,000	繰延税金負債	800
			評価差額	1,200
	資本金期首残高	5,000	S 社株式	9,000
	資本剰余金期首残高	3,500	少数株主持分期首残高	3,360
	利益剰余金期首残高	1,500		
	評価差額 のれん	1,200 1,160		
(2)	利益剰余金期首残高	360	売上原価	360
	法人税等調整額	144	利益剰余金期首残高	144
	売上原価	450	棚卸資産	450
	繰延税金資産	180	法人税等調整額	180

仕訳 1 組につき各⑩点

上級 商業簿記②

問題2

決算整理後残高試算表 (単位: 千円)

借 方		貸 方	
現 金	2,980	支 払 手 形	2,100
当 座 預 金	2,895	買 掛 金	1,300
受 取 手 形	3,400	貸 倒 引 当 金	〔 1,287 ④〕
売 掛 金	2,600	建 物 減 価 償 却 累 計 額	〔 6,840 〕
売 買 目 的 有 価 証 券	〔 2,900 ④〕	備 品 減 価 償 却 累 計 額	〔 1,280 ④〕
繰 越 商 品	〔 2,400 ④〕	預 り 保 証 金	5,800
消 耗 品	〔 120 〕	仮 受 金	〔 0 〕
仮 払 金	〔 0 〕	仮 受 消 費 税	〔 0 〕
未 収 利 息	〔 150 ④〕	未 払 消 費 税	〔 935 ④〕
短 期 貸 付 金	〔 8,000 〕	長 期 借 入 金	12,000
仮 払 消 費 税	〔 0 〕	繰 延 税 金 負 債	〔 120 ④〕
建 物	16,000	未 払 利 息	〔 480 〕
備 品	〔 2,000 〕	未 払 給 料	〔 180 ④〕
土 地	15,000		〔 〕
長 期 貸 付 金	〔 4,000 〕	資 本 金	20,000
破 産 更 生 債 権 等	〔 1,800 ④〕	そ の 他 資 本 剰 余 金	〔 2,100 〕
そ の 他 有 価 証 券	〔 2,400 ④〕	利 益 準 備 金	〔 2,000 〕
関 連 会 社 株 式	〔 2,000 ④〕	繰 越 利 益 剰 余 金	1,155
繰 延 税 金 資 産	〔 160 〕		〔 〕
自 己 株 式	〔 1,000 ④〕		〔 〕
仕 入	〔 60,050 ④〕	売 上	79,000
給 料	〔 4,480 〕	受 取 利 息	〔 678 ④〕
減 価 償 却 費	〔 924 ④〕	受 取 配 当 金	450
旅 費 交 通 費	〔 1,245 ④〕	売 買 目 的 有 価 証 券 売 却 益	700
支 払 利 息	〔 1,200 〕	売 買 目 的 有 価 証 券 評 価 益	〔 800 〕
関 係 会 社 株 式 評 価 損	〔 0 〕		〔 〕
備 品 (固 定 資 産) 売 却 損	〔 76 ④〕		〔 〕
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	〔 1,035 ④〕		
消 耗 品 費	〔 330 ④〕		
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	〔 60 ④〕		
合 計	〔 139,205 〕	合 計	〔 139,205 〕

なお、すべての空欄が使用されるとは限らない。

予想採点基準			
⑩	…	10点×2	= 20点
④	…	4点×20	= 80点
			100点

第 165 回 簿記能力検定試験

上級 会計学①

問題 1

番号	正誤欄	理 由
1	○	
2	×	工事収益総額、工事原価総額ならびに決算日の工事進捗度が信頼性をもって見積もられることの三つである。
3	×	仕入割引は営業外収益に表示する。
4	×	正味売却価額と使用価値のうち高い方の金額を評価の基準とする。
5	×	リース料総額から利息相当額の合理的な見積額を控除するのが原則である。
6	○	
7	×	新株予約権の権利の消滅は、当期の損益となる。
8	×	役員賞与は、当期の費用として計上される。
9	×	負ののれんは、原則として、特別利益に計上する。
10	○	

各④

問題 2

1	流動比率に	a. 良くなるように作用する	b. とくに作用しない	<input checked="" type="radio"/> c. 悪くなるように作用する
	理由：リース債務は決算日において長短分類され、流動負債が増加するため、流動比率は低くなり安全性は悪化する。			
	総資産負債比率に	a. 良くなるように作用する	b. とくに作用しない	<input checked="" type="radio"/> c. 悪くなるように作用する
	理由：総資産は増加するが、それと同額の負債が増加するので、総資産負債比率は高くなり安全性は悪化する。			
2	流動比率に	a. 良くなるように作用する	b. とくに作用しない	<input checked="" type="radio"/> c. 悪くなるように作用する
	理由：資産除去債務が固定負債から流動負債へ計上されるので、流動比率が低くなり安全性は悪化する。			
	総資産負債比率に	a. 良くなるように作用する	<input checked="" type="radio"/> b. とくに作用しない	c. 悪くなるように作用する
	理由：			
3	流動比率に	a. 良くなるように作用する	<input checked="" type="radio"/> b. とくに作用しない	c. 悪くなるように作用する
	理由：			
	総資産負債比率に	a. 良くなるように作用する	b. とくに作用しない	<input checked="" type="radio"/> c. 悪くなるように作用する
	理由：負債は一定のまま総資産は減少するため、総資産負債比率は高くなり安全性は悪化する。			
4	流動比率に	a. 良くなるように作用する	b. とくに作用しない	<input checked="" type="radio"/> c. 悪くなるように作用する
	理由：流動負債は一定のまま流動資産は減少するため、流動比率は低くなり安全性は悪化する。			
	総資産負債比率に	a. 良くなるように作用する	b. とくに作用しない	<input checked="" type="radio"/> c. 悪くなるように作用する
	理由：負債は一定のまま総資産が減少するため、総資産負債比率は高くなり安全性は悪化する。			
5	流動比率に	a. 良くなるように作用する	<input checked="" type="radio"/> b. とくに作用しない	c. 悪くなるように作用する
	理由：			
	総資産負債比率に	<input checked="" type="radio"/> a. 良くなるように作用する	b. とくに作用しない	c. 悪くなるように作用する
	理由：総資産負債比率が実効税率より高い場合には総資産負債比率が低くなり、安全性は向上する。			

各③

※ [別解]

5	総資産負債比率に	a. 良くなるように作用する	b. とくに作用しない	<input checked="" type="radio"/> c. 悪くなるように作用する
	理由：総資産負債比率が実効税率より低い場合には総資産負債比率が高くなり、安全性は悪化する。			

上級 会計学②

問題3 *マイナスには、△を付けること。金額の3位には「,」を打ち、桁（たて欄）も合わせる。

【株主資本等変動計算書】

株主資本

資本金

当期首残高 100,000,000

当期変動額

③ (**新株の発行**) [6,000,000]

当期変動額合計 [6,000,000]

当期末残高 [106,000,000]

資本剰余金

資本準備金

当期首残高 20,000,000

当期変動額

③ (**剰余金の配当**) [100,000]

(**新株の発行**) [6,000,000]

当期変動額合計 [6,100,000]

当期末残高 [26,100,000]

その他資本剰余金

当期首残高 5,000,000

当期変動額

③ (**自己株式処分差損**) [△10,000]

③ (**剰余金の配当**) [△2,100,000]

() []

() []

当期変動額合計 [△2,110,000]

当期末残高 [2,890,000]

利益剰余金

利益準備金

当期首残高 4,400,000

当期変動額

③ (**剰余金の配当**) [500,000]

() []

当期変動額合計 [500,000]

当期末残高 [4,900,000]

その他利益剰余金

別途積立金

当期首残高 200,000

当期変動額

(**別途積立金の積立**) [1,000,000]

() []

当期変動額合計 ③ [1,000,000]

当期末残高 [1,200,000]

繰越利益剰余金

当期首残高 7,000,000

当期変動額

③ (**剰余金の配当**) [△5,500,000]

(**別途積立金の積立**) [△1,000,000]

③ (当期純損失)	[△550,000]
()	[]
()	[]
当期変動額合計	[△7,050,000]
当期末残高	③ [△50,000]
自己株式		
当期首残高	△	800,000
当期変動額		
③ (自己株式の処分)	[800,000]
当期変動額合計	[800,000]
当期末残高	[0]
⋮		
<以下 略>		
⋮		

[注意] すべての () と [] が埋まるとは限らない。各項目の記入にあたっては、取引順(1~5)によること。

予想採点基準	
④	4点×10= 40点
③	3点×10= 30点
③	3点×10= <u>30点</u>
	<u>100点</u>

第 165 回 簿記能力検定試験

上級 工業簿記

問題 1

問 1 加工費当期換算生産量

製品 P	58,860 kg
製品 Q	74,760 kg

問 2

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
製品 P	105,416,663	仕掛品	312,820,104
製品 Q	207,403,441		

問 3 仕損費

1,177,551 円

問 4

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
製品 P	105,416,663	仕掛品	312,802,784
製品 Q	207,386,121		

問 5 製品 Q の単位原価

度外視法による場合	2,765.4 円
非度外視法による場合	2,765.1 円

問題 2

問 1 単位原価

製品 X	1,490 円
製品 Y	1,051 円
製品 Z	2,556 円

問 2

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
製品 X	11,918,360	仕掛品	20,780,000
製品 Y	6,305,520		
製品 Z	2,556,120		

上級 工業簿記

問3 製品別損益計算書

(単位：円)

	製品X	製品Y	製品Z	合計
売上高	10,880,000	6,885,000	3,401,000	21,166,000
売上原価	9,534,688	5,674,968	2,556,120	17,765,776
売上総利益	1,345,312	1,210,032	844,880	3,400,224

問4 売上総利益率

製品X	12.4 %
製品Y	17.6 %
製品Z	24.8 %
全体	16.1 %

問5

(1)	負担能力主義
(2)	分離点後の個別加工費が各製品ごとに個別に決定されるから。

予想採点基準

...10点 × 3 =	30点
...5点 × 2 =	10点
...4点 × 15 =	<u>60点</u>
	<u>100点</u>

第 165 回 簿記能力検定試験

上級 原価計算

問題 1

問 1

予算・実績差異

X製品 (670,720)円 (有利), Y製品 (579,640)円 (不利)
 総額 (91,080)円 (有利)

価格差異

X製品 (282,880)円 (不利), Y製品 (450,840)円 (不利)
 総額 (733,720)円 (不利)

数量差異

X製品 (953,600)円 (有利), Y製品 (128,800)円 (不利)
 総額 (824,800)円 (有利)

問 2

予算・実績差異総額は(有利)な差異となっているが、これは製品Xの(有利)な差異が、製品Yの(不利)な差異より大きいからである。製品Xの(有利)な差異は、製品Xの(販売価格)の低下はあったが、その影響を補ってあまりがある程(販売量)が増加したことによって生じている。

問 3

予算・実績差異

X製品 (96,960)円 (有利), Y製品 (496,840)円 (不利)

貢献利益差異

X製品 (141,440)円 (不利), Y製品 (450,840)円 (不利)

数量差異

X製品 (238,400)円 (有利), Y製品 (46,000)円 (不利)
 総額 (192,400)円 (有利)

問 4

貢献利益に関しては、予算・実績差異総額が(不利)な差異となっているが、その主な原因は、製品X、製品Yともに(販売価格)の下落に対応する(変動費)の(削減)が十分に行われなかったところにある。

問 5

セールス・ミックス差異 (707,200)円 (有利)
 (狭義の)数量差異 (246,400)円 (有利)

問 6

マーケット・シェア差異 (1,017,600)円 (有利)
 市場規模差異 (64,000)円 (不利)

上級 原価計算

問題2

問1

(a) a , b , c , のいずれかを記入
 (1) , (2) の代替案における (A 部品) と (B 部品) の (直接材料費) 部分が
 (異なる) からである。

問2 (75,600) 円原価節約になるので ((2)) 案を採用すべきである。

計算過程

- (1) @2,100 円 × 720 個 + @2,310 円 × 360 個 = 2,343,600 円
 (2) @2,100 円 × 1,080 個 = 2,268,000 円
 (3) (1) > (2)
 (1) - (2) = 75,600 円

問3 (294,000) 円原価節約になるので ((1)) 案を採用すべきである。

計算過程

- (1) @2,100 円 × (720 個 - 200 個) + @2,310 円 × (360 個 - 160 個) = 1,554,000 円
 (2) @2,100 円 × (1,080 個 - 200 個) = 1,848,000 円
 (3) (1) < (2)
 (2) - (1) = 294,000 円

問4 (178,500) 円原価節約になるので ((1)) 案を採用すべきである。

計算過程

- (1) @2,100 円 × {720 個 - (200 個 - 120 個)} + @2,310 円 × {360 個 - (160 個 - 50 個)} = 1,921,500 円
 (2) @2,100 円 × {1,080 個 - (200 個 - 120 個)} = 2,100,000 円
 (3) (1) < (2)
 (2) - (1) = 178,500 円

問5 (253,500) 円利益が多くなるので ((2)) 案を採用すべきである。

計算過程

- (1) @7,200 円 × 720 個 + @6,000 円 × 360 個 - 1,921,500 円 = 5,422,500 円
 (2) @7,200 円 × 1,080 個 - 2,100,000 円 = 5,676,000 円
 (3) (1) < (2)
 (2) - (1) = 253,500 円

予想採点基準

...10 点 × 4 =	40 点
... 4 点 × 10 =	40 点
... 2 点 × 5 =	10 点
... 1 点 × 10 =	10 点
	100 点